

2023年度（39期）
（2022年10月～2023年9月）



環境経営レポート



2023年11月22日 発行

株式会社 タイヤチップセンター

目 次

計画の策定 (Plan)

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲（認証・登録範囲）	4
3. 環境経営方針	5
4. 環境経営目標	6
5. 環境経営計画	7

計画の実施 (Do)

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	8
-----------------------	---

取組状況の確認及び評価 (Check)

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、 並びに今後の取組	11
(1) 環境経営目標の実績	11
(2) 環境経営計画の取組結果とその評価	12
(3) 次年度の取組内容	13
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、 訴訟などの有無	14

全体の評価と見直し (Act)

9. 代表者による全体評価と見直しの結果	14
----------------------	----

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

株式会社 タイヤチップセンター 代表取締役 白井 文平

(2) 所在地

〒816-0912 福岡県大野城市御笠川一丁目16番13号

(3) 環境管理責任者及び担当者の連絡先

環境管理責任者：白井 文平 担当者：竹原 康則

連絡先：TEL 092-503-0002 FAX 092-503-0095

Emailアドレス takehara@tiretipcenter.co.jp

(4) 事業の概要

廃タイヤの収集・運搬及び中間処理

URL <http://www.tiretipcenter.co.jp/>

(5) 事業の規模

区分	単位	37期	38期	39期
		2021年度 (2020年10月～2021年9月)	2022年度 (2021年10月～2022年9月)	2023年度 (2022年10月～2023年9月)
処理量	t	10,446	10,992	11,214
従業員数	人	30	31	32
延べ床面積	m ²	5,244	5,244	5,244

(6) 法人設立年月日

1984年10月3日

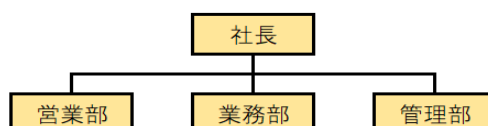
(7) 資本金

500万円

(8) 売上高

2023年度 (26,900万円)

(9) 組織図



計画の策定 (Plan)

(10) 許可の内容

■ 産業廃棄物処分業許可

区分	許可年月	有効期限	許可番号	許可品目
福岡県	2014年12月18日	2024年12月17日	4020000919	中間処理（破碎）：廃プラスチック 中間処理（切断）：廃プラスチック

■ 産業廃棄物収集運搬業許可

区分	許可年月	有効期限	許可番号	許可品目
福岡県	2014年12月18日	2024年12月17日	4000000919	廃プラスチック類、金属くず ガラスくず等、廃油、ゴムくず
佐賀県	2017年11月16日	2027年11月15日	4103000919	廃油、ゴムくず、がれき類、廃プラスチック類 金属くず及びびんガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず
長崎県	2016年8月26日	2026年8月25日	4200000919	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず
熊本県	2017年10月31日	2027年10月25日	4305000919	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず コンクリートくず及び陶磁器くず、ゴムくず
大分県	2015年3月22日	2025年3月21日	4407000919	廃プラスチック類
宮崎県	2015年6月22日	2025年6月21日	4501000919	廃プラスチック類
山口県	2019年9月15日	2024年9月14日	3500000919	廃プラスチック類、金属くず ガラスくず、ゴムくず

■ 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可

区分	許可年月	有効期限	許可番号	許可品目
福岡県	2018年1月14日	2028年1月13日	4050000919	廃酸

保管場所面積：219㎡ (処理前産業廃棄物)

(11) 運搬車両の種類と台数

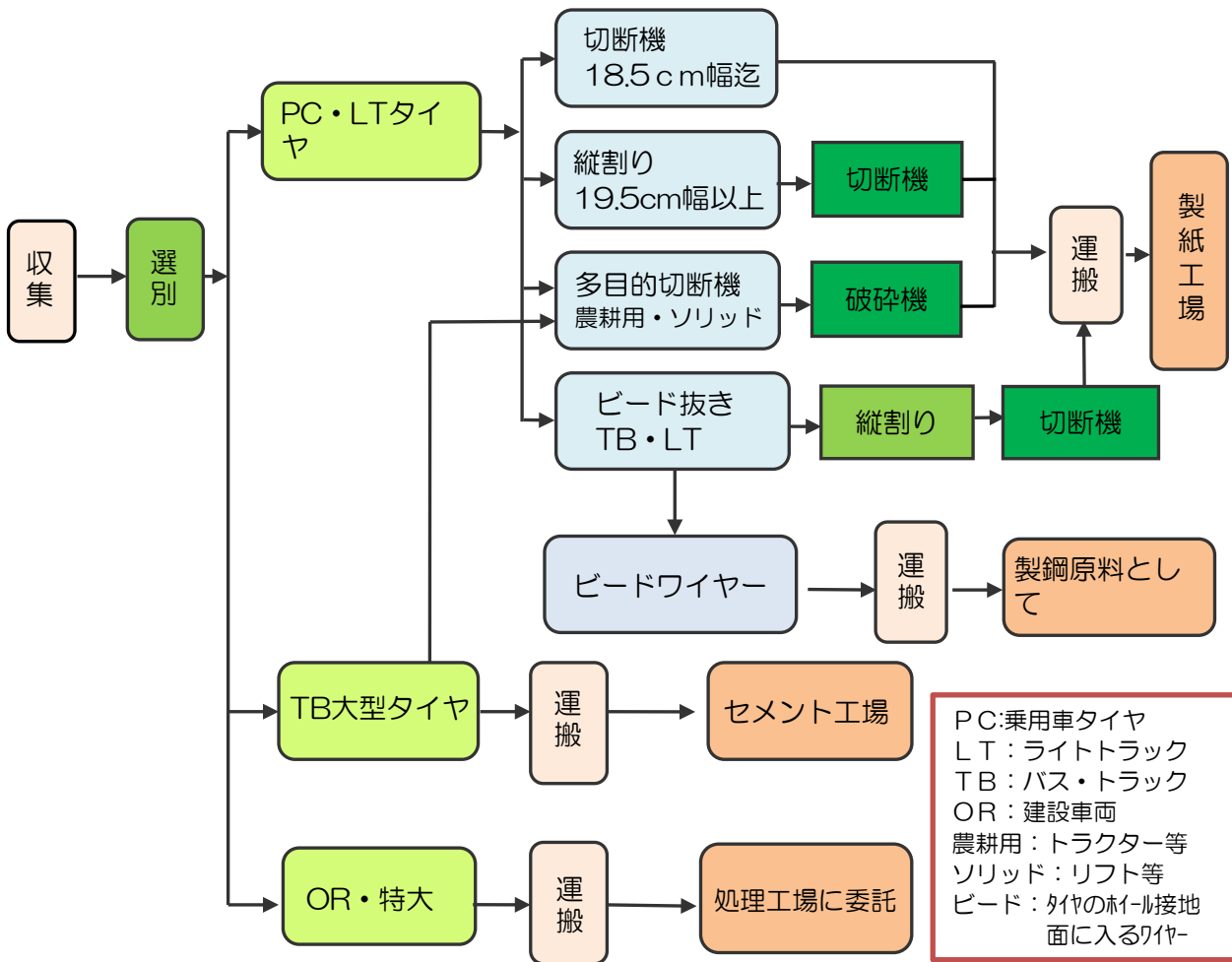
27 t トレーラー	2台	3 t キャブオーバー車	2台
24 t トレーラー	2台	2 t キャブオーバー車	1台
10 t キャブオーバー車	1台	2 t ダンプ車	1台
6 t キャブオーバー車	1台	1.5 t キャブオーバー車	1台
5 t キャブオーバー車	1台	軽トラック	2台
4 t キャブオーバー車	1台		
3.5 t キャブオーバー車	8台	合計	23台

(12) 処理施設の種類の種類、処理する産廃の種類、処理能力（規模）、処理方法

施設の種類の種類	：	破碎施設
品目	：	廃プラスチック類
設置年月日	：	1985年10月8日
所在地	：	福岡県大野城市御笠川1丁目16番13号
処理能力	：	破碎40.3 t / 日 切断71.5 t / 日
稼働時間	：	8 h / 日

計画の策定 (Plan)

(13) 処理工程図



(14) 処理実績

2023年度 (2022年10月 ~ 2023年9月)

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
(i) 収集運搬	廃タイヤ		11,214
	収集運搬量合計		11,214
(ii) 中間処理	廃タイヤ	選別・切断・破碎	11,214
うち 再資源化	カットタイヤ	選別・破碎・切断後燃料化	8,480
	ビードワイヤー	ビード抜き後鉄鋼原料化	300
	丸タイヤ	焼成原料化 (UBE三菱)	2,434
	再資源化等量小計		11,214
	中間処理合計		11,214
(iii) 最終処分			
	最終処分量合計		0
(iv) 中間処理後の産業廃棄物	最終処分	(残渣なし)	0
	再資源化等		0
		再資源化等量小計	
	中間処理後処分量合計		0

2. 対象範囲 (認証・登録範囲)

(1) 対象事業所

本社

(2) 対象活動

廃タイヤの収集運搬及び中間処理

(3) 対象外事業所・活動

なし (全組織、全活動、全従業員が対象)



3. 環境経営方針

【環境経営理念】

地球規模での環境の変化や企業の社会的責任が強く問われるようになった昨今、私たちの会社は発生した廃タイヤを素早く回収して、チップ化処理することで工場等の燃料として再資源化することを主な仕事としており、廃棄物の適正処理を通じて循環型社会づくりに貢献します。

また、事業活動を行うに当たっては、地域の皆様に信頼される企業になることを使命と考え、環境保全を経営の大きな柱として位置付け、環境経営の継続的改善に努めて参ります。

【環境行動方針】

環境経営システムを構築・運用し、適時見直しながら、以下を重点項目として取り組みます。

1. 事業活動における省エネルギー、省資源、リサイクルの推進、節水、グリーン調達に積極的に取り組み、環境負荷の低減に努めます。
2. 再生可能エネルギーの利用、収集運搬車はエコドライブに努めて二酸化炭素排出量を削減します。
3. 会社及び周辺地域の美化活動を積極的に推進し、より良い地域環境の実現に貢献します。
4. 環境経営方針を全社員が理解し、環境保全を意識した活動が出来るよう教育訓練を行います。
5. 法令を遵守します。
6. 環境経営レポートを作成して、私たちの活動の結果を社外にも公表します。

2008年3月21日 制定

2020年10月1日 改訂

株式会社 タイヤチップセンター
代表取締役 白井文平

4. 環境経営目標

- ・当社の事業活動で発生する環境負荷等の実態を踏まえて、2023年度(39期)の環境経営目標は以下の4項目6目標を設定しました。
- ・今年度は破砕機1基を増設予定ですが、電気使用量については常時ウェブでチェックできる機器を導入して稼働をコントロールし、廃タイヤ回収量の増加分以上に増えない目標としました。
- ・なお、「受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮」については、環境経営方針の基本理念である「受託廃棄物の適正処理を通じた循環型社会の実現」の考え方にに基づき、「廃タイヤ回収量の増加」を環境経営目標に掲げ、目標達成に向けて取り組みました。

環境経営目標	単位	基準年	単年度目標	中長期目標	
		38期実績値 (2022年度)	39期 (2023年度)	40期 (2024年度)	41期 (2025年度)
		2021/10~2022/9	2022/10~2023/9	2023/10~2024/9	2024/10~2025/9
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	271,548	245,100	245,100	245,100
(1) 電気使用量の削減 (破砕機1基増設分をコントロール)	kWh	247,871	252,000	252,000	252,000
(2) 軽油使用量の削減 (基準年実績より10%削減)	ℓ	105,251	95,000	95,000	95,000
2. 一般廃棄物(可燃ごみ)排出量の削減 (基準年実績を維持)	kg	2,390	2,400	2,400	2,400
3. 総排水量の削減 (漏水分を除いた水使用量を維持)	m ³	677	600	600	600
4. 廃タイヤ回収量の増加 (基準年実績値を維持)	t	10,992	11,000	11,000	11,000

備考) ・電力の二酸化炭素排出は、新電力会社との契約により二酸化炭素排出係数は0となった。
 ・可燃物の排出量は、指定ごみ袋(燃えるごみ袋)1個を10kgとして計算した。
 ・化学物質は使用していないので、目標から除外した。

5. 環境経営計画

- ・環境経営目標を達成するため、以下の具体的な活動項目を決めて全社員で取り組みま
- ・取組に当たっては、活動項目の担当者を決め、取組目標の責任者（EA21チーム構成メンバー）を配置し、担当者から報告を受けた責任者が毎月の実施状況を所定の書式に記録して確認し、これを環境管理責任者が四半期毎に評価するチェックシステムを構築して、目標達成に努めました。

1. 二酸化炭素排出量の削減（245,100kg-CO₂以下で操業）

取組目標		責任者	活動項目		担当者
(1)	電気使用量の削減	下馬場	1	エアコンの設定温度を決め、実行する	下馬場
			2	使用しない電灯・電源は消す	
		岡崎	3	デマンド警報 130kW以内での操業	岡崎
			4	作業の効率化（朝礼時に作業工程確認）	
(2)	軽油使用量の削減	水上	1	エコドライブ（アイドリングストップ）の徹底	角
			2	定期点検整備の実施	
			3	タイヤの空気圧を定期的に確認	
			4	収集経路の効率化（ミーティング時に確認）	

2. 一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減（基準年38期実績を維持）

取組目標		責任者	活動項目		担当者
(1)	一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減	田中	1	リサイクル可能な紙やペットボトルの分別を徹底し、指定ごみ袋の発生量をチェック	田中

3. 総排水量の削減（漏水修理完了で予測数値を目標設定）

取組目標		責任者	活動項目		担当者
(1)	総排水量の削減	岡本	1	洗濯機の利用を管理	岡本
		岡本	2	散水・ミストの管理	岡崎

4. 廃タイヤ回収量の増加（基準年38期実績値から特別回収分を除き前年維持）

取組目標		責任者	活動項目		担当者
(1)	廃タイヤ回収量の増加	下馬場	1	回収本数・走行キロ・通行料の集計（効率アップ）	下馬場
		淵上	2	中間処理施設のメンテナンスの徹底・強化（タイヤチップの品質向上・安定）	平野

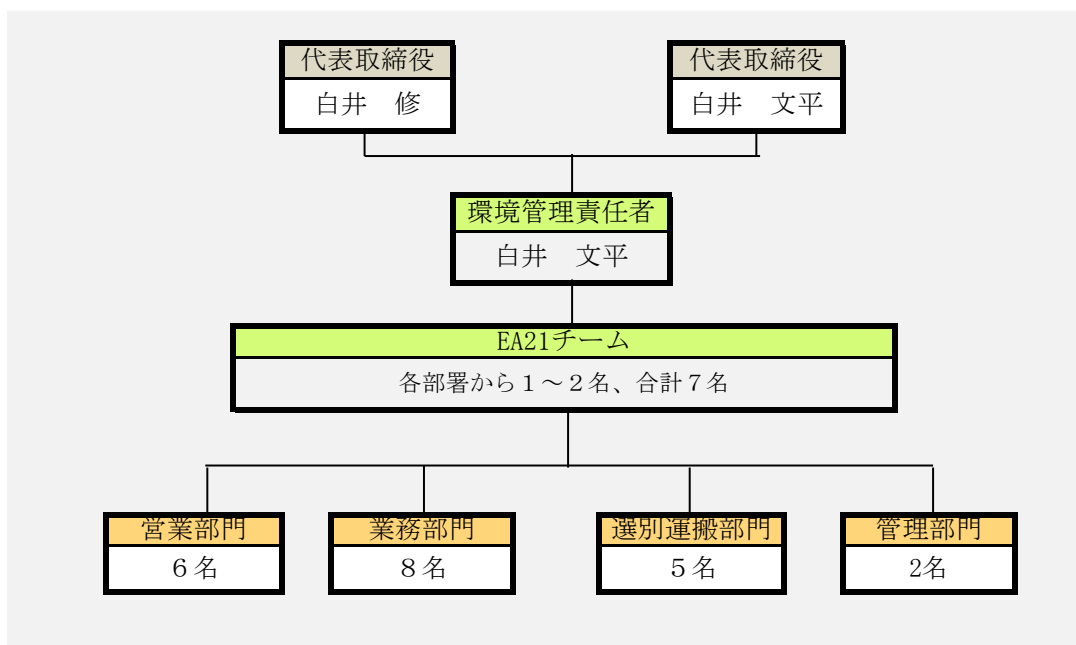
【当社の取組状況のチェック体制】

1. 活動項目担当者は、毎月5日までに前月の実施状況を取組目標責任者に報告する。
2. 取組目標責任者は、実施状況の報告内容と目標に対する実績値を、「環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況、その評価結果」に記録する。
3. 環境管理責任者は、3ヶ月毎にこれらの確認結果について評価するとともに、問題があると判断されたら、当該取組目標責任者に是正処置の実施を指示する。
4. 指示された取組目標責任者は、是正処置を実施する。

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

- ・2023年度(39期)に当社が実施した環境への取組は、以下のとおりです。
- ・なお、実施に当たっては、社内に次のような実施体制を構築して、全社員が一丸となって取り組みました。

(1) エコアクション21実施体制



EA21チームの会議風景



計画の実施 (Do)

(2) 2023年度(39期) 運用期間に実施した環境への取組

二酸化炭素排出量の削減取組

電気



デマンド管理

軽油



収集運搬車両の出発前点検

車両管理の実施

- デマンドを監視する機器を更新し、電気の使用状況がウェブでリアルタイムに確認できるようにした。
- 破碎機・切断機の同時稼働を制御して電気使用量をコントロールする取組をスタートした。
- 軽油使用量削減の取組みとして、出発前点検を毎日行っている。
- 運転月報を記録する事で、車両管理が簡素化された。

一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減取組

可燃物



定期調査

缶、
ペット



資源ごみ分別

ゴミ捨てルール



ゴミ袋の管理

- 可燃物の中に、それ以外のものが入っていないか、四半期ごとに調査した。
- ペットボトル、瓶、カンに分別しリサイクルしている。
- ゴミ袋の在庫管理。

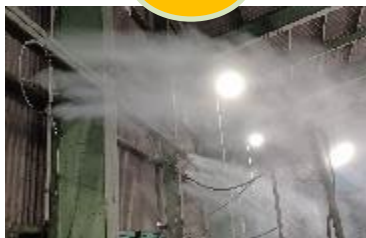
総排水量の削減取組

メーター



水道メーター

ミスト



ミスト使用

雑巾



雑巾も管理

- 水道メーターをチェックし、水使用量の数値を、毎月の会議で検討している。
- ミストの導入、使用基準を決めて活用。
- 洗濯の回数を決め、少量の洗濯をやめて、まとめ洗いを行っている。

廃タイヤ回収量の増加取組

関連情報



GPS無線を活用

在庫管理



石鹼、洗剤類ストック

整理整頓



書類整理

- 効率よく廃タイヤ回収するために、GPSの位置情報及び、スマートフォンのクラウドサービス活用を進化させ、各部署超えた連携で回収効率が上がりました。
- 清潔を意識し、社員の身だしなみを整え、イメージアップを得る。
- 工場の処理体制の効率アップを図る、作業効率、生産性アップに繋がった。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに今後の取組

(1) 環境経営目標の実績

- ・2023年度（39期）の環境経営目標達成状況は以下のとおりであり、設定した4項目6目標のうち、2項目2目標のみの達成でした。
- ・回収エリアが広がり回収量も増えたことで、電気・軽油とも使用量が目標をオーバーしました。水使用量が増えたのは猛暑対策でミストを増設したことが主な原因です。廃タイヤの回収は順調で、一般廃棄物の排出量もコントロールできています。

環境経営目標	単位	基準年	39期（2023年度）		目標達成率	目標達成判定
		38期実績値 (2022年度)	(2022/10~2023/9)			
			目標	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	271,548	245,100	285,580	86%	△
(1) 電気使用量の削減 (破砕機1基増設分をコントロール)	kWh	247,871	252,200	254,587	99%	△
(2) 軽油使用量の削減 (基準年実績より3%削減)	ℓ	105,251	95,000	107,408	88%	△
2. 一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減 (基準年実績より4%削減)	kg	2,390	2,400	2,380	101%	○
3. 総排水量の削減 (漏水分を除いた水使用量を維持)	m ³	677	600	722	83%	△
4. 廃タイヤ回収量の増加 (基準年実績を維持)	t	10,992	11,000	11,214	102%	○

(備考) ・目標達成率の計算方法 削減目標：目標÷実績×100、増加目標：実績÷目標×100
 ・目標達成の判定区分 ○：目標達成率120%以上、○：100%以上120%未満、△：80%以上100%未満
 ×：80%未満、-：判定不可

取組状況の確認及び評価 (Check)

(2) 環境経営計画の取組結果とその評価

- ・2023年度(39期)の環境への取組結果は以下のとおりであり、各環境経営目標の全活動項目で適切に実施することが出来ました。しかし、目標と取組との関係から目標未達成項目もみられることから、今後も全社員で取組を継続していきます。

1. 二酸化炭素排出量の削減 (基準年実績を維持)

取組目標		目標達成状況	活動項目	取組実施状況
(1)	電気使用量の削減	△	① 室温を決めてエアコンで調節する	○
			② 使用しない電灯・電源は消す	○
			③ デマンド警報 130kW以内での操業	○
			④ 作業の効率化 (朝礼時に作業工程確認)	○
(2)	軽油使用量の削減	△	① エコドライブの徹底	○
			② 定期点検整備の実施	○
			③ タイヤの空気圧を定期的に確認	○
			④ 収集経路の効率化 (ミーティング時に確認)	○

備考) 目標達成状況区分 ◎: 目標達成率120%以上、○: 100%以上120%未満、△: 80%以上100%未満、×: 80%未満、-: 判定不可
 取組実施状況区分 ◎: よく実施できている (定着) ○: 実施できている、△: 概ね実施できている、×: 実施できていない、-: 判定不可

2. 一般廃棄物 (可燃ゴミ) 排出量の削減 (基準年実績を維持)

取組目標		目標達成状況	活動項目	取組実施状況
(1)	可燃ごみ排出量の削減	○	① リサイクル可能な紙やペットボトルの分別を徹底し、指定ごみ袋の発生量をチェック	○

3. 総排水量の削減 (基準年実績の維持)

取組目標		目標達成状況	活動項目	取組実施状況
(1)	総排水量の削減	△	① 洗濯機の利用を管理	○
			② 散水・ミストの管理	○

4. 廃タイヤ回収量の増加 (基準年実績値を維持)

取組目標		目標達成状況	活動項目	取組実施状況
(1)	廃タイヤ回収量の増加	○	① 回収本数・走行キロ・通行料の集計 (効率アップ)	○
			② 中間処理施設のメンテナンスの徹底・強化 (タイヤチップの品質向上・安定)	○

(3) 今後の取組

- ・例年取り組んでいる「効率アップ」は作業手順の見直しや、新しい機器の導入で効果を上げてきましたが、39期は2名の新しい人材の加入により大きく進化することができました。40期も人材募集を続けながら、規模拡大の中で組織で動くことを意識し、5S、報連相の仕組み等の基本を見直し再構築することで効率アップを目指します。
- ・ホームページがリニューアルされ、環境経営レポートを公表。環境へのかかわりに気づき、目標をもち、行動していく事が期待されます。
- ・39期の一番の成果は、毎月行われる会議の精度が上がったことにより、各部門の担当者が数値の管理、理解を深められたこと。四半期ごとの見直しではPDCAを回す形ができたことです。私たちの仕事を進化させ、効率を上げながら本業の規模を拡大していくことを念頭に置いて40期の環境経営目標を以下のとおり策定しました。また、環境経営計画は本年度の取組内容を引き続き継続することとしました。

2024年度（40期）の環境経営目標

環境経営目標	単位	基準年	単年度目標	中長期目標	
		39期実績値 (2023年度)	40期 (2024年度)	41期 (2025年度)	42期 (2026年度)
		2022/10～ 2023/9	2023/10～ 2024/9	2024/10～2025/9	2025/10～ 2026/9
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	285,580	287,150	285,821	284,492
(1) 電気使用量の削減 (基準年実績を維持)	kWh	254,587	266,290	266,000	266,000
(2) 軽油使用量の削減 (基準年実績を維持)	ℓ	107,408	108,000	107,500	107,000
2. 一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減 (基準年実績を維持)	kg	2,380	2,380	2,350	2,350
3. 総排水量の削減 (漏水分を除いた水使用量を維持)	m ³	722	720	700	700
4. 廃タイヤ回収量の増加 (基準年実績を維持)	t	10,519	11,000	11,500	12,000

備考) ・電力の二酸化炭素排出係数は、38期より新電力の会社と契約し排出係数0となった。
 ・可燃物の排出量は、指定ごみ袋（燃えるごみ袋）1個を10kgとして計算した。
 ・化学物質は使用していないので、目標から除外した。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

- ・当社に適用される主な環境関連法規等は以下のとおりであり、39期（2023年度）の事業活動において遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
- ・また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等も過去3年間ありませんでした。

法規等の名称		主な遵守事項	遵守結果
1	廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> ・収集・運搬基準 ・マニフェストの交付・管理 ・産業廃棄物処理施設の維持管理 ・処理実績の報告 	○
2	消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・少量危険物貯蔵・取扱の届出書提出 	○
3	地球温暖化対策推進法	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスの排出抑制措置 	○
4	グリーン購入法	<ul style="list-style-type: none"> ・環境物品等の購入に努める 	○

備考) 遵守結果区分 ○: 遵守 ×: 不遵守 -: 該当なし

全体の評価と見直し (Act)

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

＜環境活動の実施と数値目標の達成状況＞

定期的開催される委員会で活動内容を決めて、継続して活動ができています。M&Aの実施により、当初目標設定とは違った部分が出てしまい、苦労したことと思います。急なことだったので対応が追い付かなかったでしょう。それ故、目標の達成状況には想定外の部分も多かったと思います。それでも当初の目標を継続して取り組んでくれたことは評価に値します。次年度はM&Aでの変更部分も踏まえて取り組んでいただくようお願いいたします。

＜環境経営方針・環境経営システム＞

役割分担はよくできていましたが、数名が怪我や病気で離脱があり、その際のバックアップ体制が取れていなかったように感じます。資料共有など「見える化」は進んできていますが、属人化していることもまだ多くありそうです。平準化できるよう工夫してみましよう。ホームページのリニューアルで問い合わせが増加しています。発信できる内容を適宜見直し情報の劣化がないようにしましよう。

M&Aの実施等、会社組織には変化もありました。それに伴い、収集範囲の見直しや作業の流れ、配置の変更もあります。業界動向を捉えながら設備投資や組織変更はスピーディーに確実に行う必要があります。柔軟な対応と課題解決力を磨いて効率的で環境負荷の少ない運営を心掛けてください。人員が増加すれば無駄になりやすい部分も増えてきます。適切な管理をお願いします。



代表取締役 白井 文平